

関東支部研究発表会発足の思いで

信州大学名誉教授 田草川 信雄

日本セラミックス協会関東支部からのご指名により、関東支部70周年記念の講演をさせていただくことになりました。とくに、支部研究発表会発足当時のことを思い出してとのこと。何かお話できることがあるかと、支部のホームページや手持ちの古い資料を探してみました。

支部のホームページに掲載された研究発表会一覧表を見ますと、たしかに、1985年、長野市で第1回の研究発表会が開催され、実行委員会代表は私でした。しばらくご無沙汰している間に、今回が26回目と知り、よくぞ続けていただいたものと、あらためて感謝の念をいただきました。

実は、当時の関東支部長の金澤孝文先生（当時都立大）からの電話で、「関東支部で研究発表会を開いてはと思うが、首都圏ではなくて、信州で開催しないか」とのお話でした。後日談ですが、川副先生（当時都立大）も仕掛け人だったと、ご本人から伺いました。当時、はずかしながら、私は関東支部の様子は全く知らなかったもので、一瞬、戸惑いました。しかし、信州大学にも、当時、セラミック材料合成関係と電子材料物性関係の研究者が数名いましたし、また、地域企業の経営者がセラミックスに関心を持ち始めたところでもあり、金澤先生にさらに詳細なお考えを伺いました。先生は、「全部おまかせします。必要経費は請求してください」とのことでした。では、地元の関係者と相談して気軽に・・・と思ったところ、今にして思うと、先生からの次の一言はたいへん重いものだったのです。「まあ、うまくいくようであれば、継続したいとおもいます。」でした。前述のように、私が「感謝の念」をいただいたわけがおわかりいただけたでしょうか。

当初は4～5県を巡回して開催するのかなとおもいましたが、その後、開催県が増えて、数えると9県となりました。これまでの、歴代支部長をはじめ関係者のご尽力に敬意を表します。

ところで、第1回を企画するにあたり、次の2つのことを念頭に置いたような気がします。（1）支部の若手から大先生までが、未発表・既発表に拘らず、ご自分の研究について語りあえる場としたい。できれば、参加者が同一宿舎に滞在する。（2）全国単位で開催される研究発表会や討論会の時期を避けて開催日を設定する。今日とは違って、当時は夏季講習などが少なかったもので、学生さんの夏休みが良かろうと判断しました。参加者の募集、講演予稿集の作成は今と似ていますが、当時、予稿原稿の多くは手書き、発表はOHPシートでした。

研究発表会の運営は満足なものではなかったかもしれませんが、支部からのご配慮と地元の関係者及び参加者のご協力で27件の発表と2件の特別講演があり、なんとか無難に開催することができました。その後、回を重ねるにしたがって支部会員の交流も進み、1989年、長野市で第5回の研究発表会を開催したときは、2件の特別講演と34件の研究発表があり、発表会の翌日は、有志が長野市の飯綱高原でゴルフを楽しんだりしました。その後もゴルフは盛んであり、研究発表会場では親しくお話する機会がなかった方々ともお知り合いになる機会となりました。宇田川先生のリーダーシップで一層盛りあがりました。なお、今は故人の児島先生（当時山梨大）柳田先生（当時東大）などもゴルフがたいへんお好きでした。

若手研究者の表彰もどなたが最初に企画してくださったか記憶していませんが、グットアイデアでした。紙面の都合で、残りは当日、お話しします。